



「会議」のための習作
63.0 x 38.7 x 31.5 cm
楠に彩色 / 1980 / 岩手県立美術館蔵



はね橋を見てきた
80.0 x 65.5 x 31.5 cm
楠に彩色 大理石 / 1982 / 岩手県立美術館蔵

岩手県人にはひとつの美学があつて、
もの静かな人間こそが美しいと考えるんでしょう。

岩手をいいところだなと感じる

— 舟越さんは岩手県のご出身だとい
うことですが、盛岡にはいくつの頃ま
でいらっしやっただんでしょ
うか？
舟越 「生まれて3ヶ月ほどで東京に移
りました」

— ごく短期間だったんですね。盛岡
には家族で疎開されたとか。
舟越 「そうです。もともと父（彫刻家
の舟越保武）があちらの出身で、親戚
もいましたので。次に盛岡を訪れたの
は、中学の修学旅行だったかな。盛岡
の駅には確か電車が停まっただけで、
下車しなかつたかも」

— その後、盛岡へは？
舟越 「大人になるまでは行く機会がな
くて、1982年に貸画廊で最初の個
展をやった時に父がよく知る岩手の画

廊（MOROKA 第一画廊）の人が観
に来て、作品を2点買ってくれたん
です。片一方は送ったんですが、片一方
はリュックに入れ、電車に乗って自分
で持って行きました」

— 2004年には岩手県立美術館で
『舟越桂展』も開催されています。
舟越 「2003年の東京都現代美術館
が皮切りの個展で、その後盛岡へも巡
回しましたね」

— 舟越さんにとって、岩手はどんな
場所なのでしょう？
舟越 「そうですね。ただ、そのうち親
戚とも頻繁に行き来するようになりま
したし、父があつち小山小屋のよう
な別荘を、岩手山の向こう側に建ててか



Katsura

Funakoshi

百兵衛インタビュー

彫刻家

舟越 桂

木彫による肖像彫刻と「スフィングス・シリーズ」など異形の人物像で知られる、日本を代表する彫刻家・舟越桂。幼少時から東京で育った彼の生まれ故郷は、実は岩手県盛岡市である。7月下旬、百兵衛編集部はそんな彼のアトリエを訪ね、岩手に対する想いや作品誕生時の逸話などを取材した。作品図版やアトリエのスナップ写真なども交えながら、舟越の創作の秘密について迫ってみたい。